

### 3. 導入すべき機能

---

前掲の基本理念及び方針を踏まえつつ、本公園に導入すべき機能を、貴重な歴史・文化資産としての適切な保存を前提とし、以下のとおり設定する。

#### ① 歴史・文化体感・体験機能

発掘調査・研究の成果をもとにした遺跡の積極的な活用と、周辺の歴史的・文化的景観と併せ、平城宮跡が持つ広大な空間スケールを活かした景観形成により、古代国家の歴史・文化を体感・体験する機会を提供する。

<具体的な展開方針>

- ・地下遺構の公開や出土品の展示など、本物の遺跡が持つ力を活用する。
- ・主要な遺構については、十分な調査研究成果に基づいた実物大の復元、表示など、発掘場所での空間スケールを活かした整備を行う。
- ・視点場を設定し、修景・遮蔽のための植栽を行うなど、宮跡(みやあと)に立ち、周囲を見渡すことにより、復元・表示された遺構と相まった宮跡さらには古都奈良の広がり、雄大さが感じられ、往時に思いを馳せることができるような景観形成を行う。
- ・復元、表示された遺跡を用いた催しや歴史・文化体験学習プログラムの実施、バーチャルリアリティ<sup>※</sup>等新技术の導入も視野に入れた興味を引くわかりやすい展示、解説など、誰もが楽しみながら往時の歴史・文化を詳しく学ぶことのできる取組を行う。
- ・発掘調査から遺跡の各種表現に至る一連の取組を適宜公開、説明し、学習機会として活用していく。

※バーチャルリアリティ：仮想現実。

#### ② 歴史・文化交流拠点機能

平城宮跡はもとより古都奈良全体に関する歴史・文化情報を国内外に発信する。また、歴史・文化に関する国際交流や地域交流に資するイベント等を開催する。

<具体的な展開方針>

- ・歴史文化に関する国際的なシンポジウムや交流会議、平城京全体の発掘調査に関する講演・講習会の開催、研究成果の展示など、古都奈良の歴史・文化の発信や交流を行う。
- ・復元された建物や大路等を活用した歴史・交流イベント等ソフトプログラムの取組を行う。

#### ③ 観光ネットワーク拠点機能

古都奈良の観光拠点の一つとして、平城宮跡の特徴を生かした歴史・文化体感・体験の取組を行うのに併せ、観光情報の発信や交通ターミナルの整備を行い、奈良

の他の観光地と連携するゲートウェイの役割をもたせる。

＜具体的な展開方針＞

- ・ バス・タクシー等の交通ターミナルに物販、飲食、観光情報等の機能を加え、公園の玄関口であるとともに、奈良県観光の玄関口とする。
- ・ 平城宮の広がりや復元建物や大路、展示施設などを活用して奈良の観光拠点の一つとして利用する。

#### ④ 自然的環境保全・創出機能

都市部に残された貴重な自然的環境を保全・創出し、その活用を図ることにより、自然体験の機会を提供する。

＜具体的な展開方針＞

- ・ 隣接地の自然環境との連続性に配慮しつつ、池沼・草地・樹林地等の自然環境の保全創出を図る。
- ・ 現況の資源を活かし、野鳥観察や水辺の生き物観察など自然体験学習等の利用を行う。

#### ⑤ レクリエーション機能

都市部にある貴重なオープンスペースとして、多目的に活用できる広場等を受け、従来からある多様なレクリエーション利用に対応する。また、季節や時間の移ろいを楽しむための施設整備等により、公園としての魅力を高めていく。加えて、大規模地震等非常災害時の避難場所として必要な整備を行う。

＜具体的な展開方針＞

- ・ 広大な緑地のスケールを活かし、土地条件に応じた緑と水辺の空間づくりを行い、魅力を高める。
- ・ 万葉植物の展示や、花見や月見など宮跡から見る景色を楽しめる運営を行い、歴史公園としての魅力を高める。
- ・ 日常利用から学校や団体による観光利用まで、多様な人々の利用に配慮する。

#### ⑥ 利用サービス機能

快適性や利便性を高める各種施設の整備等により、様々な来園者に質の高いサービスを提供する。

また、地域住民、NPOをはじめとした多様な主体の参画を促していく。

＜具体的な展開方針＞

- ・ 緑陰の確保、飲食・物販の提供、ベンチ、休憩所等の休憩施設や便所、駐車場等の便益施設、利用案内の充実化を図る。
- ・ 園内移動を円滑にするためのシステムの導入を検討する。
- ・ 園内のリアルタイムの利用情報を発信する。
- ・ 多様な主体の参画を促すための拠点づくりやプログラムの整備を行う。